

(資料1)

市長・市民復興対談開催結果

○開催結果・予定

日時	会場	団体名	参加者
7月26日(火) 18:00~19:00	香取市役所 504 会議室	若い世代の代表者	11人
8月16日(火) 19:00~20:35	山田公民館 視聴覚室	くすター商業協同組合	9人
8月20日(土) 13:30~14:40	小見川支所 301 会議室	黒部川をふるさとの川にする会	6人
8月26日(金) 18:00~18:35	丸山旅館	小見川工業団地連絡協議会	17人
8月27日(土) 13:30~15:30	佐原 町並み交流館	特定非営利活動法人 小野川と佐原の町並みを考える会	21人
8月27日(土) 19:10~20:40	事務所 (十二橋駅前)	特定非営利活動法人 香取市与田浦を考える会	16人
9月29日(木) 19:00~	栗源 保健センター	栗源観光農業協会	人

市長・市民復興対談 概要（分野別）

市長・市民復興対談の概要を復興計画の分野別計画の体系に沿って、整理しました。

1 市民生活の再生

（１）住宅再建・生活再建の支援

- 仮設住宅の建設など、もう少し早い対応ができなかったのかと思う。（若い世代）
- 自分の宅地の地盤強化や補修は、自分でしなければいけないが、費用がどのくらいかかるかが知りたい。業者の話は、千差万別で、高かったり安かったり、適正価格がわからない。建屋自体の地盤は補強をしていたが、周りの宅地が沈下し、宅地の補修にどれくらいかかるのか。（黒部川）

（２）医療・保健・福祉の充実

- 病院関係（小見川総合病院・県立佐原病院）のダメージはどうであったか。（小見川工業団地）

（３）放射性物質に対する不安解消・安全確保

- 旭では、広報無線で、放射能のレベルのお知らせをしていた。（くすター）
- 若い、子どもを持っている人が放射能を心配している。九州の方に引っ越すという話も出ている。政府の放射能の発表などもあるが、食べ物、公園、運動場など、調査結果を広報で詳しく知らせしてほしい。（小野川）

2 社会生活基盤の再生

(1) 道路・河川の復旧

- 小見、竹之内から小見川に向かう県道沿いの家の屋根がかなり落ちている。大きなトラクター等の通行による揺れが震災前よりひどいので、徐々に直してもらいたい。府馬地区も県道沿いは大きな揺れを感じる。テレビも映らなくなる。(くすター)
- 堤防を早く直してもらいたい。(小見川工業団地)
- 堤防にはびっくりした。最近も新潟の洪水があったが、あんなのがきたら堤防がひとたまりもない。この地域は海拔0mの地域であり、避難場所も海拔0mでそのような時はどうすればいいのか。(与田浦)

(2) 上下水道の復旧

- 下水道、上水道を埋めたところがかかなり動いた。配管を地下に埋設する場合は、配管の強度だけでなく埋める対策も考慮してもらいたい。(黒部川)

(3) 各種公共施設の復旧

特に意見なし

3 地域経済・産業の再生

(1) 農業の再建支援

- 新田地域の水田で大きな被害が発生し、用排水施設が破損し、田植えができない状況であり、来年以降も心配。復旧にはお金が必要なため、離農の話が出ている。耕作放棄地となることが心配。(若い世代)
- 肉牛について騒がれている。香取管内の検査結果は問題ないが、価格が半値・1/3など大幅に下落。肉牛農家の破綻が心配。(若い世代)
- グリーンツーリズムが栗源などで成功していると思うが、佐原の水の郷の下の田んぼでの体験もいいのではないかと。佐倉のチューリップ祭りでも植えさせて、参加させている。そういうゾーンがあってもいいと思う。(小野川)

(2) 放射性物質汚染による出荷制限 や風評被害対策

- セシウムの中で、不検出という話があったが、一般の人は知っているのか。農産物が主なものなので、広報で知らせてもらいたい。(くすター)

(3) 商工業の再建支援・商工業振興

- 震災後、緊縮ムードで商店街は毎日が定休日状態だった。零細業者の資金対策があれば広報で知らせてもらいたい。(くすター)

(4) 観光の振興・情報発信

- 佐原青年会議所は、復興の冠をつけ通常どおり事業を開催。千葉県全域が集まる大会も9月に開催予定。その中で復興関連も実施予定。(若い世代)
- 観光客が、最近は団体客ではなく、個人のアベックが多くなっている。案内板等をわかりやすく付けてもらいたい。(小野川)
- 観光について、なかなか戻らない。まずバスがあまり入らない。これは佐原の震災でやられたというイメージが強いのではないかと。少しマスコミ、メディアを使った情報発信が必要ではないかと。(小野川)
- 震災前から観光入込が落ちているのではと感じていた。観光に求めるものが変わってきているのかなと思っていた。新しい佐原の観光のあり方、売り方を考えていかなければ増えないのではないかと。イメージづくり、売り方を行政と市民が一体となって研究すべきと思う。(小野川)

- 埼玉県の人で、以前、観光案内をした人から電話があり、今、佐原に行ってもいいのか。気の毒で行けない。ということであった。復興に向け観光宣伝をしたほうがいいと思う。(小野川)
- 10月から伊能忠敬記念館の駐車場が、駐車料金がかかるという話がある。地元も了解はしているが、どこの観光地の駐車場でもそうだが、商店街や山車会館、記念館利用者特典など考えているのか。10月に向けて、観光客へのサービスの点を観光課が中心になり手を伸ばしてもらいたい。(小野川)
- 今後について、歴史的町並みは磨きをかけ、横宿通りのあるものを活かし、3丁目の夕日みたいな時代の雰囲気を作っていくことで、いろいろな時代にタイムスリップできるようなまちにしてはどうか。北口は近未来、町並み地区、横宿地区などテーマ性をまったまちにしていくのはどうか。(小野川)
- 香取市として、佐原、小見川、山田、栗源が連携して、地域全体で一日過ごせるような観光にしてもらいたい。佐原だけでは、せいぜい半日の滞在であるので、連携してやってもらいたい。(小野川)
- 香取市の農産物が安全であるというPRをしながら、東京からの観光客を呼んでもらいたい。(小野川)
- 佐原のまち中心部と周りを繋ぐ方法として、畑を借りて、春にサツマイモを植えて夏は草取り、秋は収穫など、宿泊して観光もしてもらおうようなシステムができれば地域と結びつくと思う。(小野川)
- 佐原に滞在してもらっても夜が非常に寂しい。盆のときにライトアップがあったが、とてもきれいだった。夜を明るくして、佐原の夜もきれいということになれば宿泊もということになると思う。(小野川)
- 伊能忠敬の大河ドラマ化キャンペーンをやっている。18年が伊能忠敬没200年祭になるので、7年かけてやっていきたいと思う。(小野川)

(5) 歴史的町並みの再建

- 行政の協力を得て、町並みの一日も早い復興が一番いいと思う。(小野川)

4 災害に強いまちづくり

(1) 防災拠点の復旧・整備

特に意見なし

(2) 防災体制の強化

- 役場などに安心な水（自家水道のようなもの）があれば、何かのときに使える。（くすター）
- 家に井戸があり、検査をして、飲める水だが、停電するとポンプが使えない。地区に小さな発電機があれば、給水車がくるまでの対応ができる。（くすター）
- 佐原の避難場所にボランティアで行ったが、板の間にじかでは大変で、寒くないような畳やシートなどの備蓄などの対策をしてもらいたい。（くすター）
- 葛飾区では、区長と言ってもわからないので、腕章をつけて、救護などの活動をしてきた。いざというときわかりやすい。地域が動かなければならないので、地域の中でそういうものを作っておいたほうがいい。（くすター）
- 防災無線が、聞こえない。個別受信機も買っておけばよかったと思った。（くすター）
- 地区に災害物資のコンテナをつくり、順次増やし、備蓄品の期限切れに併せ防災訓練をやるのはどうか。まちづくり協議会も立ち上がっているので、そこでやってもらえばいい。（くすター）
- 防災無線の放送がほとんど聞こえなかった。（小見川工業団地）
- 水は、小見川事務所で配布をしていたが、長時間並ぶ状況で、一人暮らしの老人に配るだけの余裕がなかった（黒部川）
- 消防用水を緊急時のときに活用できるような方法がとれ、一時的にトイレなどに使えないか。（黒部川）
- 被災の状況のお知らせが行政の方から1日半くらいなかったもので、不安であった。現状がわからなかったもので、いろいろな方法で広報をしてもらいたかった。（小野川）
- 停電、水が出ず、ラーメンも食べられない。即席のものも売り切れの状態だった。市の方で発電の施設を持ってないのか。（小野川）
- 地震の後、車の通行がかなりあったので、カラーコーンを持っていき安全を確保しましたが、そういったものの備蓄が必要だと感じた。（小野川）
- 防災行政無線の聞こえる地域と聞こえない地域の差が激しい。特に町の中は聞こえない。（小野川）
- 戸別受信機の設置を早く進めてほしい。（小野川）
- 今、防災メールということで、メールで受信できるので、是非登録すると思う。水の時などとても便利だった。（小野川）
- 水について湖東地区で、当初給水がなかった。地域の区長が要請したところ配慮してもらった。できれば最初から設置してほしかった。（与田浦）

- 今、緊急避難場所が、小中学校になっていると思うが、そこも0mの地域である。湖東小学校などは、液状化で避難場所にもいけないということもある。今後は避難場所についても見直しをしてもらいたい。（与田浦）
- 避難場所は、湖東小も新島小も避難場所になっているが、実際に震災が起きたとき、新島小に行ったが、何の対応もなかった。備蓄もあるが、何が備蓄されていて、鍵は誰が持っているのか、右往左往して何の役にも立たなかった。その辺の確認をしてもらいたい。（与田浦）
- 防災無線について、最初は聞こえるが、だんだん重なって聞こえなくなってしまう。あれをラジオで聞くことはできないのか。（与田浦）
- みんな携帯を持っているので、メールで送ってもらったほうがいい。（与田浦）

(3) 再生可能エネルギーの利活用

特に意見なし

(その他意見)

- 工業団地連絡協議会で、一番気になるのは電気である。計画停電はいいが、前もって、前日には知らせてもらいたい。（小見川工業団地）
- 阪神大震災の時の教訓で、お風呂に水を貯めるのは、震度6、7になると風呂が動い
てしまい、水道管やガス管を引きちぎり、住めなくなる。水は貯めても1/3、1/4
以下がいい。（黒部川）
- おおくすニュータウンは、町で販売したものであるが、盛土したところが液状化して
いる。今後、市で分譲することがあれば、水田などは避けた方がよい。（くすター）
- 断水は、3軒に1軒くらい井戸が掘ってあり、それで対応できた。香取市は復旧等の
対応が良かった。感謝している。3日、4日の断水はやむを得ない。（黒部川）
- 黒部川をきれいにしようと活動しているが、下水道に接続しないで、油が流れてくる
ところがある。下水道への接続を推進して、きれいにしてもらいたい。（黒部川）
- 以前から小野川をもっときれいな川にしたいと思っていた。
小野川は、川底の砂が細かいために汚く見えるという話を聞いているが、この震災で
落ちた明治の瓦は吸水性もありコケが生えたりするので、それを活かしてきれいにで
きないかなと思う。砂が舞い上がらないように小石を置けばいいのかなという発想で、
落ちた古い瓦が再生して川をきれいにしてくれたらと思った。（小野川）
- 昔は、小野川には、川藻がぎっしり生えていた。小野川の上流は田んぼなので、泥が
流れてきてしまう。これをきれいにするには、川藻など自然の工法できれいにするほ
うがいいと思う。（小野川）
- 与倉、大崎方面に行き、小野川の上流の様子を見るが、凄く濁っていて透きとおって
いることはまずない。その水が常に小野川に流れているので、上流の合併浄化槽の普
及をお願いしたい。（小野川）

(資料2)

香取市災害復興計画
区長・町内会長等意見交換会開催結果

日にち	時間	会場	対象地区 (人数)	出席者
9月15日(木)	10:00~11:30	栗源支所 2階 201会議室	栗源 (18人)	14人
9月15日(木)	13:30~14:45	本庁 5階 大会議室	佐原 (204人)	88人
9月16日(金)	10:00~11:20	小見川支所 3階 多目的 ホ ー ル	小見川 (60人)	36人
9月16日(金)	13:30~15:00	山田公民館 2階 視聴覚室	山田 (26人)	22人

○栗源地区 意見概要

(復興計画について)

- ・予算の裏付けをしっかりとしてほしい。また計画の内容について、広報紙で周知願いたい。
- ・計画の進捗状況等を逐次、公表してほしい。
- ・復興計画に異議を申す人はいないと思うが、従前から行ってきた事業についてもしっかりと継続してもらいたい。

(復旧について)

- ・栗源分遣所の整備の具体的なスケジュールを明示してほしい。また、整備に当たっても規模的に余裕のある施設整備をお願いしたい。
- ・栗源公民館などは、地盤が悪い場所に建てている。今後、公共施設を整備する場合は、もう少し地盤の良い所をお願いしたい。
- ・田部にある老人福祉センターが震災後に使用できないので不便である。早期に今後の方向性を示してほしい。
- ・県管轄の道路や河川の本格復旧に係るスケジュール等の情報提供をお願いしたい。

(防災体制、情報提供等について)

- ・各支所に水や食料等の備蓄があるのであれば、市民に十分な周知してもらいたい。また備蓄については、区などのコミュニティ単位への備蓄を奨励してはどうか。
- ・地域的に土砂災害の危険性が高いので、危険地域の周知等に努めてほしい。
- ・佐原地区の被害が大きかったのは理解できるが、全てを本庁に集約するのではなく支所のこととも考慮願いたい。
- ・区の組長や班長が中心になって高年者世帯等の安否確認を行ったが大変だった。今回は問題なかったが、心配な事項である。

(その他)

- ・見舞金の増額等について検討願いたい。

○佐原地区 意見概要

(復興計画について)

- ・復興計画もP D C Aサイクルにより、確実に実行してもらいたい。また財源の確保が大切である。

(復旧について)

- ・水道管が仮設配管で露出しているため、この夏、水道水が熱かった。今後、冬の凍結が心配であるので、断熱材を巻くなど対策をお願いしたい。
- ・小野川をできるだけ震災前と同じ状態（もとの形）に復旧してもらいたい。
- ・側溝についても下水道同様に十分な整備をお願いしたい。

(防災体制、情報提供等について)

- ・情報連絡体制の充実とあるが、日頃からの訓練が大切である。

(その他)

- ・浄化センターから発生する汚泥の放射能が心配である。
- ・応急仮設住宅への入居期限は2年以内に限られているが、その入居期限の延長等を検討してもらいたい。
- ・大倉地区は低地のためすぐに冠水等が発生する。台風等の集中豪雨時の対策について検討願いたい。
- ・震災前の要望事項が、災害復興が優先されるため、いつ実施してもらえるのかわからない。震災前の要望についても、できるだけ実施時期等を明示してもらえると助かる。
- ・十間川をもっときれいに。また十間川と両総用水の桜をもっとPRしてはどうか。

○小見川地区 意見概要

(復興計画について)

- ・今回の大震災のような災害に対しては、防災ではなく減災という考え方があってもいいのではないか。

(復旧について)

- ・利根川護岸は、スーパー堤防の整備を促進してはどうか。
- ・道路の陥没等が非常に多いが、復旧に当たっては水道や下水道と連携し効率的な整備をお願いしたい。
- ・下水道の本格復旧のスケジュールをできるだけ早く明示してもらいたい。
- ・スポーツコミュニティセンターの体育館が未だに使えない。早急な対応をお願いしたい。
- ・県道沿いに住んでいるが、震災後、大型トラック等が通ると振動が大きくなった。是非とも、市から県に調査等の依頼をお願いしたい。

(防災体制、情報提供について)

- ・今回のような停電に備え避難路などに、太陽光を利用した誘導灯などを設置してはどうか。
- ・小学校の近くに設置してある青色蛍光灯は、より目立つ黄色などの蛍光灯がいいのではないか。
- ・利根川をさかのぼる津波被害の想定も必要ではないか。また利根川の土手が決壊した想定も必要ではないか。

○山田地区 意見概要

(復興計画について)

- ・ 予算の裏付けをしっかりとしてほしい。
- ・ 例えば液状化対策など、市でできることと、国県等がやることをはっきりさせる必要があるのではないか。
- ・ 府馬地区でも液状化により多くの建物に被害が出ている。特に避難場所である青年館が被災していることもあり、液状化の発生について計画書の中に明記をお願いしたい。

(防災体制、情報提供等について)

- ・ 独居老人等が地域で取り残される傾向にある。今後は、見守り体制の構築など、人と人とのつながりをより強くする必要がある。
- ・ 災害時の緊急時相互応援協定であるが、広域的な災害を想定し、近隣の市町村だけではなく、遠方の市町村とも締結すべきである。
- ・ 特に災害対応については、従来のように身近な支所で全て対応してくれることが望ましい。
- ・ 特に水道の復旧関係の情報について、もう少し詳細な情報を流してもらいたかった。
- ・ 防災行政無線が聞き取りづらい。

(その他)

- ・ 災害に乗じて、屋根が損壊した家にブルーシートをかけるだけで高額な請求をする悪質な業者がいるとの話がある。もし市でそのようなことを把握した場合は、回覧等で周知願いたい。
- ・ 吉野平地区では、集中豪雨のたびに、増水・冠水している。昔から何度も要望を出しているので対応願いたい。
- ・ 合併特例債を十分に活用すべきである。

香取市災害復興会議 第2回会議概要

日 時 平成23年9月5日(月) 午後1時30分から3時15分

場 所 香取市役所 4階 庁議室

出席者 14人(代理含む) 欠席3人

岸井隆幸	前田正博	堀井啓(代理)	浅野文男	柏木幹雄
高岡宏基	城之内義雄	亀谷秀夫(代理)	飯田教久	松井健一
花澤 栄	尾形忠志	根本由美子	鈴木恵子	(敬称略)

- 1 開会
- 2 あいさつ
○香取市災害復興会議 議長 岸井隆幸
○香取市長 宇井成一
- 3 議事
(1) 市民アンケート結果について(報告)
(2) 香取市災害復興計画(素案)について
(3) その他
- 4 その他

【会議での意見等】

- 防災行政無線の個別受信機について、停電も同時に起こり、電池を交換していないため、聞きづらく、雑音が入ってしまっている。電池を買いに行っても、電池がなかった。折角の防災行政無線なので、電池を定期的に交換することなど、お知らせしてほしい。
- 今回の被害地域は、特定の地域に限られている。利根川沿いの地域に被害が大きく、他の地域の被害は少なかった。やはり液状化の問題がかかわってくる。アンケート結果からも、香取市の被害がどの地域に多く、なぜこういう被害が出たのかが、ある程度わかった。
- 国道356号は、昔、利根川の堤防だった。大水が出て、堤防が切れ、今の356号の南側に池ができていた。利根川の河床を掘り、その砂を佐原中学校のあたりに埋めていった。素人考えで、液状化は、地質気密化すればよいということで、地中に木材を埋めれば、地質が気密化し、液状化が防げるという案があった。科学的にそういう判断があるのか。地域で被害が全然違う。玉造、諏訪近辺はほとんど影響がない。地盤が硬いのか。
- 利根川を浚渫して埋め立てた場所で、今回、家屋や道路等で被害が多かった気がする。
- 利根川は、もともとは江戸川沿いに流れていたものを、江戸時代に付け変わった。江戸時代に浅間山の噴火等で、土砂が流れてくる被害が出て、もう一本東京湾に行く放水路も計画されたこともあるが、実現できず、利根川を掘削して川の断面積を増やした。利根川下流河川事務所の歴史を見ると、個人から掘った砂を入れて欲しいという要望が多く、その砂で、田んぼや宅地にしていった。液状化がクローズアップされるようになったのは、昭和39年の新潟地震のころで、その前は、皆さん意識がなかった。

- 今回のように酷い被害はなかったが、以前にも庭などで液状化が起きたところがある。
- 液状化が起きる場所は、大体わかっている。きめ細かな砂が堆積し、地下水がある場所が、地震で揺らされると、水圧が高くなり、土を構成する粒子が浮いた状態になって水のようにになってしまう。

今回、東京都内でも液状化が起きた。利根川沿いで歴史的に砂が堆積している場所や東京湾の近辺で海面を埋め立てたところは、今回液状化が起きている。

砂の中に杭を打ち込み、揺さぶって水を抜いたり、コンクリートで固めたり、いろいろな工法で地盤改良ができるが、深いところだと相当お金もかかるため、改良してあるところと改良してないところがあり、今回の東京湾沿いの埋め立て地でも、改良ができていないところは液状化が起き、差が明確に出た。

最近はいろいろな先生方が、限定的な改良で液状化が防げるのではないかと、被害を小さくできるのではないかという研究がされている。今回の被害は、揺れた期間が長いため、液状化の準備が整い、第2波の振動で液状化が起きたと言われている。

○議長

被災の状況は、歴史的な経過もあり、地域で差があるのも事実だと思う。今回はそれを踏まえた復興計画を考えなければいけない。

- 個々の事業は、ほとんど網羅していると思うし、特に地域住民の自助努力、自己責任、助け合いという部分が計画されており、内容的にはよいが、あとは実行だと思う。問題は、財源をどうするか、執行体制をどうするかである。できれば分野ごとの事業費や事業計画、財源確保の見通しを計画できたら、この計画に対する市民の信頼、インパクトがあると思う。

ハード面の被災施設の復旧は当然として、ソフト面はこれまで他の計画で言われたことがなく、必ずしも実行できるとは言い難い。検証し進行管理に当たってほしい。

- 計画を見て、これが成功できたらすばらしい香取市ができると思う。

私の場合は農業をしており、液状化した田にトラクターで入ってみたが、トラクターが埋もれてしまい、それを持ち上げるため大きいトラクターを送ったが、ワイヤーが切れてしまった。結局、ユンボで持ち上げた。こういう液状化を市はどう考えているのか。

○議長

大半の事業が、事業主体は市となっているが、市ということでもいいのか。

- 田んぼが沼のようになってしまうのは、暗渠をやらなくては駄目である。暗渠をして、下に水が溜まらないようにしないと、どうにもならない。

この計画は、29年までの計画だが、そうではなく、長期的に考え、庁舎は山に持っていかないと駄目。台風で道路が寸断され、家もわからないときはヘリコプターが必要。緊急時は、やはり消防と病院が必要。消防にはヘリポートを造り、市でヘリコプターを買い、住民を守らないといけない。

- この市庁舎は液状化被害がなく、周りが地盤沈下しているが、これはなぜか。パイルを打つなど、基礎をよくやったのか。

駅前に空きビルがあるが、あそこは地盤が悪く、潜函工法というコンクリートの枠を造り浮かべる工法で、その上にビルが建ったが、今回の地震でも壊れなかった。

- 香取市の被害は、家屋、農地、道路、すべて液状化が関係している。家屋は、液状化の地区でも、杭を基礎に何本も打ち込んだ家は被害がないという話を聞いた。液状化に対する工法など、液状化対策は難しいものと感じた。

この素案は、被害の状況を的確に把握し、それで復興の基本目標を立てており、大変よいと思ったが、それを裏づけるお金がかかると思う。このお金の工面が7年間続くのか心配である。県や国から支援を引き出さなければ、市の予算だけではできないのではないか。

- 基本理念は、基本目標を機能させ、キャッチフレーズ的な考え方でということ、「香取の再生、新しいまちづくりを目指して」とすれば、うまくまとまると思う。

○議長

基本理念は、政治的なメッセージみたいなところがあるので、皆様から、キーワードもらい、それを市長が政治姿勢としてメッセージを短く整理するのが妥当ではないか。

みんなで議論しても、一つの文章にするというのは容易でないので、入れてほしい気持ちを紙に書き、市長さんに決めてもらってはと思う。

- 分野別計画の中で、住宅再建支援の項目で、被災者が住宅を再建するにあたり、金融機関の貸し付けを受ける場合の利子を助成とあるが、金額の上限や期間など具体的にはどのようなものか。

主な事業で、中小企業者の事業資金を融資という項目があり、実施主体が国、県、市となっているが、香取市独自の復興資金に関する利子補給、助成などの案はあるのか。

- 香取市は、4つの地区が一つの市になったが、今回の震災対策が、地域ごとにどうするというメッセージがわからないので、何か工夫が必要。佐原、小見川は、液状化が中心で、栗源は放射能汚染で農作物が被害を被っている。被害の状況・質が違うので、起きた問題を地域ごとに示し、それに対する計画として打ち出す方法もある。

今後を見通し、香取市ならではの取り組み、特色あることを打ち出す必要があり、その一つに小野川沿いの建造物関係がある。再生可能エネルギーを活用して、メガソーラーの導入など夢のようなものがあるので、将来に向けた新しい挑戦的な取り組みも入れた方がよい。

- 農協としては、放射能汚染のことが一番気にかかる。水稻は、放射性物質は検出されなかったもので、米の流通の引き合いが多い。銚田の方で少し検出されただけで、茨城産米の流通が減り、値下がりがしている。簡便な測定器で勝手に測定して情報発信されることもあるので、測定は行政のみが実施し、風評被害につながらないようにしてほしい。行政が保証書を添付するようなこともしてもらいたい。

- 液状化の関係で、水田が大分被災し、1割以上が作れない状態である。パイプラインは直せばいいが、液状化は、広範囲で大きな予算もかかり、厳しい状態なので、来年の農業が不安がないように、早急に原因も調べて対応してもらいたい。

- (4)の観光振興で、香取市は歴史的、文化的な資源が多くある。行政がよく勉強し、観光事業をやってもらいたい。

企業、大型店舗の誘致を推進について、若者が香取市に住まないのは、奥さん方のよい職場がないためである。近くに奥さん方の職場をつくれば、地元で消費する。大企業

ではなくは、小さい職場でいいから、つくってもらいたい。

- 小野川下流の沿いの住民は、親戚へ行ったり、避難所へ行ったりで少なくなっている。水道は仮設水道で復旧されているが、下水は復旧していない。下水が復旧すれば、帰ってくると思う。家に帰りたいという希望が多いので、市で何とかお願いしたい。

小野川の工事や国交省河川事務所で堤防工事をよろしくお願いしたい。

○議長

実行性が、非常に大事である。計画だけ作っても実行できなければ意味がないので、具体的に、財源や執行体制を検討し、無理のないプランとしなくてはいけない。

我々も責任があるので、極力情報を提供してもらいたい。

被災の状況は地域によって違うため、地域に応じた復興があるべきという意見もあり、その辺をわかりやすく、被災の状況を計画に入れてもらいたい。

単にこの数年間だけでなく、長期的な、戦略的な視点が要するという指摘があり、その長期的な戦略として、香取市ならではのチャレンジ、これまで抱えていた雇用の問題などを復興を通じて、解決できれば、努力すべきという意見があった。単に復旧にとどまらず、その先をにらんだ、チャレンジングな戦略もぜひ考えていきたい。

農業の問題、観光の問題、ソフトの問題、それぞれ意見があったが、言い足りないことは、事務局に意見提出してください。

(資料4)

香取市災害復興計画策定スケジュール

日にち	全体スケジュール	会議スケジュール
9月21日(水)		○災害復興本部事務局会議
26日(月)		■香取市災害復興会議(第3回)
9月26日(月) ～10月2日(日)	○復興計画(案)の修正	
10月 3日(月)		●災害復興本部会議
11日(火)		□市議会全員協議会説明
17日(月)	○パブリックコメント開始	
11月16日(水)	○パブリックコメント終了	
11月中旬～下旬	○意見に対する市の方針作成	
11月下旬		○災害復興本部事務局会議
11月下旬	○意見に対する市の方針公表	●災害復興本部会議
12月上旬	<u>○香取市災害復興計画策定</u>	

平成 23 年 9 月 26 日
香取市災害復興会議 第 3 回会議



-東日本大震災-
香取市災害復興計画
(案)

平成 23 年 9 月
香 取 市

目 次

第 1 章 はじめに

I 災害復興計画の概要

- 1 計画の趣旨 1
- 2 計画の位置づけ 1
- 3 計画の役割・性格 1
- 4 計画期間 2
- 5 計画の範囲 2

II 香取市の被災状況 3

第 2 章 復興の方向性

I 復興の基本理念 6

II 復興の基本目標 7

III 重点的課題 10

第 3 章 復興計画の推進

I 計画推進の 5 原則 12

第 4 章 復興に向けた取り組み

I 分野別計画の体系 16

II 分野別計画の具体的内容・事業 20

第 1 章 はじめに

I 災害復興計画の概要

1 計画の趣旨

平成23年3月11日、日本観測史上最大のマグニチュード9.0を記録した大地震が東日本の広範囲を襲い、本市においても、停電、水道の断水、下水道の砂没や断裂、道路の寸断、河川護岸の崩壊、住宅の倒壊や沈下・傾斜など莫大な被害を受け、未曾有の大災害となりました。

特に、液状化による被害が顕著であり、本市の復興にあたっては、液状化の被害を踏まえ、市民生活や社会生活基盤、地域経済の再生、今後の災害対策などの課題に対し、将来を見据え着実に、また効率的で効果的に復興施策を推進することが求められます。

一刻も早い完全復旧・再生を成し遂げ、本市が安心して安全なまちとして、さらなる発展を目指し、香取市災害復興計画を策定するものです。

2 計画の位置づけ

平成23年5月23日に策定した「香取市震災復旧・復興基本方針」に基づき、「一東日本大震災―香取市災害復興計画」を策定します。

震災による被害が甚大であり、震災からの復旧・復興が最重要課題であることから、香取市総合計画基本構想（平成20～29年度）及び前期基本計画（平成20～24年度）を踏まえ、震災対策の特別計画として策定し、復興への道筋を明らかにし、優先的に復興施策に取り組むこととします。

前期基本計画については、震災により目標を達成できないものや見直しが必要なものなどの検証を行い、後期基本計画に引き継ぐものとします。

3 計画の役割・性格

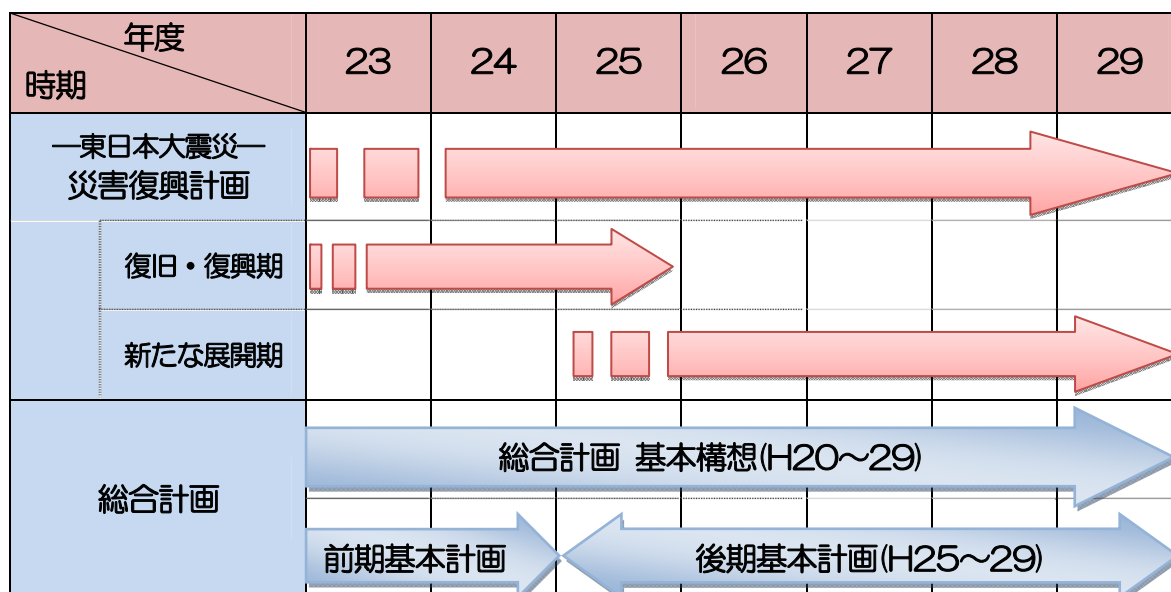
この計画は、次に掲げる役割と性格を持つものとして策定します。

- 災害復興のための行政計画として策定します。
- 被災者の自立復興を支援する計画とします。
- 国・県等に対しては、必要な復興事業の推進や支援を要請するものとします。
- 市民や各種団体、民間事業者に対しては、生活・事業再建や計画実現に向けた積極的な取り組みを促す指針とします。

4 計画期間

平成23年度から平成29年度までの7か年計画とします。

復興にあたっては、概ね10年後を見据えながら、総合計画の目標年次である平成29年度までの計画として、総合計画で目指す将来都市像「元気と笑顔があふれるまち 一人ひとりの市民が輝く 活みなぎる やすらぎの郷 香取」の実現に向けて、本計画を推進します。また、復興への取り組みを平成25年度からの後期基本計画に引き継ぎます。



- ※ 復旧・復興期 … 主にインフラの復旧、都市基盤の再建を目指す期間
 新たな展開期 … 暮らしやすく安心して安全なまちとして新たな香取市を構築する期間

5 計画の範囲

復興計画の範囲は、市が主体となって推進する施策や事業のほか、国、県、一部事務組合等の公共機関や市民、各種団体、民間事業者、NPOなどの民間団体などが実施する施策や事業も含めるものとします。

また、平成22年度の震災直後から実施している施策や事業を含めます。

Ⅱ 香取市の被災状況（平成23年9月1日現在）

1 建物被害

○被災建物総数：約 5,000 棟

※ 現在、詳細を調査中。

※ 地盤の液状化等による住家の被害認定の新基準（5/2 内閣府）が示され、建物の傾斜基準の緩和・建物の潜り込み被害が判定対象に変更

○被害認定状況

	合計	佐原	小見川	山田	栗源
全壊	209	164	35	9	1
大規模半壊	1,024	860	122	38	4
半壊	1,119	911	166	35	7
一部損壊	2,741	2,046	556	125	14
合計	5,093	3,981	879	207	26

※ 現在、調査継続中のため数値が変動します。

2 液被害状況

○液状化面積：約 3,500ha（東京ドーム 約 750 個分）

○住宅地液状化面積：約 140ha（佐原地区・小見川地区の利根川沿岸の低地が中心）

3 道路・河川等被害

○道路被災件数：541 件（現在：通行止：8 か所 片側通行：5 か所）
（最大：通行止：81 か所 片側通行：31 か所）

○河川被災件数：19 件 河床隆起（1 件）、護岸亀裂・傾斜等（12 件）、
水門周辺崩壊・門扉傾斜等（6 件）
（他に、県管理一級河川小野川の河床隆起、護岸崩壊あり）

○急傾斜地被災件数：1 件

○被災状況内訳

	合計	佐原	小見川	山田	栗源
道路被災	541	304	145	74	18
河川被災	19	9	10	-	-
急傾斜地	1	-	1	-	-
合計	561	313	156	74	18

4 上水道被害

○断水戸数：約 19,770 戸（栗源地区を除く、ほぼ全域）

○断水状況内訳

	合計	佐原	小見川	山田	栗源
断水世帯数	19,768	9,458	8,150	2,150	10
加入世帯数	20,881	9,458	8,150	2,150	1,123
断水率	94.67%	100%	100%	100%	0.89%

○断水解消：4月17日（仮設配管を含む復旧工事により市内全域で断水解消）

5 下水道被害

○影響戸数 公共下水道：約 1,500 世帯
農業集落排水：約 250 世帯

○被災状況内訳

	合計	佐原	小見川	山田	栗源
下水道	約 1,500	約 700	約 800	-	-
農業集落排水	約 250	約 200	約 40	約 10	-
合計	約 1,750	約 900	約 840	約 10	-

6 各種公共施設被害

○学校施設等被害

小中学校、給食センターは、ほぼ全施設が被災
新島中学校は、液状化により使用不能

○消防施設被害

栗源分遣所が被災し、使用不能

○その他施設被害

市役所庁舎周辺、市営住宅、保育所施設、老人ホームひまわり苑、北総斎場など、各種公共施設が被災

7 農業関係被害

○液状化等被害：農地・農業用施設が被災

当初	作付不能 2,500ha	収量減 14,000 t	損害額約 28 億円
現在	作付不能 337.4ha	収量減 1,890 t	損害額約 3.8 億円

8 放射能関係被害

○農産物被害

出荷制限：ホウレンソウ（制限期間：4月4日～4月22日）

風評被害による価格下落や販売量の低下

○脱水汚泥

上下水道の脱水汚泥の引き取り拒否や引取り価格の上昇

■市内公共施設の被害総額：約142億円（平成23年9月までの補正予算額の合計）

（道路・河川、水道、下水道、農業関係施設、観光関係施設、文教施設、庁舎、消防施設など）

※ 今後、公共施設の復旧を進めるにあたり、概算で、約200億円に上る見込み。

○液状化エリアマップ

第 2 章 復興の方向性

I 復興の基本理念

震災からの復興を成し遂げ、総合計画において将来都市像として掲げる「元気と笑顔があふれるまち 一人ひとりの市民が輝く 活みなぎる やすらぎの郷 香取」を実現するため

(基本理念)

つながろう かとり
～ 支え合い 助け合いの力で 輝く未来へ ～

をスローガンとして掲げ、計画を推進します。

今回のような大規模な災害時には、行政による対応のみでは限界があることが明らかになりました。この経験を活かし、これまで以上に、市民や事業者、各種団体等との連携強化を図ること、そして地域での支え合い、助け合いが不可欠なこととして求められています。また、今後の復興に向けた様々な課題を克服していくためには国・県・他の市町村との連携を強化した取り組みを進める必要があります。

そういった様々な支え合いや連携などを香取市の復興のスローガン(シンボルマーク)である「つながろう かとり」と重ね合わせました。

香取市震災復興ロゴ



Ⅱ 復興の基本目標

基本理念を踏まえ、一体的な復興に取り組むため4つの基本目標を掲げます。

1 市民生活の再生

被災者が一刻も早く震災前の生活に戻れるよう住宅再建・生活再建に向けた支援を強力に推進します。また、被災した市民の心身の健康を総合的にケアするため、医療・保健・福祉体制の充実を図ります。

■「市民生活の再生」のために

(1) 住宅再建・生活再建の支援

国・県・市等の義援金、各種支援金、貸付金などの情報を提供し、支援策を活用できるよう取り組み、被災した市民の早期の住宅再建や生活再建を支援します。

(2) 医療・保健・福祉の充実

被災した市民が健康でいられるよう心身のケアを行います。
また、今後の災害に備え、施設整備や地域と協力して災害時要援護者に対する支援体制を構築し、医療・保健・福祉の充実を図ります。

(3) 放射性物質に対する不安解消・安全確保

市民が不安を抱いている放射性物質について、大気、水道水、農畜産物などの測定を継続的に実施し、情報を提供して、不安解消、安全確保に努めます。

2 社会生活基盤の再生

ライフラインなど社会生活基盤の復旧・整備を図ります。また、単なる復旧にとどまらず、より安心で安全なまちづくりを推進します。

■「社会生活基盤の再生」のために

(1) 道路・河川の復旧

交通の安全や地域排水の整備を図り、道路や河川、交通安全施設の復旧を早期に行います。

(2) 上下水道の復旧

生活基盤の再建を図り、水道・下水道の本格的な復旧を早期に行います。また、耐震化や液状化に対応した災害に強い工法で復旧を行います。

(3) 各種公共施設の復旧

施設を利用する市民の安全確保、利便性向上を図るため、被災した公共施設の早期の復旧を行います。また、子どもの安全確保を図るほか、災害時の避難所の充実を考慮し、小中学校、保育所など施設の耐震化等の整備を行います。

3 地域経済・産業の再生

農業、商工業、観光など被災した地域経済・産業の早期復興を図ります。また、新たな産業振興を図り、地域経済の活性化を推進します。

■「地域経済・産業の再生」のために

(1) 農業の再建支援

農地や農業用施設を復旧し、震災前と同様に、農産物の生産ができるよう再建を支援します。また、農産物のPRやブランド化を推進し、農業活性化を図ります。

(2) 放射性物質汚染による出荷制限や風評被害対策

農畜産物の放射性物質の測定の実施を要請し、広域的な取り組みを含め、結果を公表して安全性をPRし、風評被害対策を進めます。

(3) 商工業の再建支援・商工業振興

被災した事業者及び中小事業者等の事業資金融資の支援や各種相談を実施し、商工業の再建を支援します。また、商工業の活性化事業やイベントへの支援、企業等の誘致活動を行い、商工業の振興を図ります。

(4) 観光の振興・情報発信

被災した観光資源の復旧を支援し、観光の再生を図ります。また、新しい切り口による活性化計画の策定や観光イベントを推進し、観光振興を図ります。

(5) 歴史的町並みの再建

歴史的建造物の復旧の支援を行い、町並みの再建を図ります。
今後の震災に備え、耐震化等を推進します。

4 災害に強いまちづくり

今回の震災を教訓とし、防災拠点の復旧・整備や防災体制の強化など災害に強く、安心して暮らせるまちづくりを推進します。

■「災害に強いまちづくり」のために

(1) 防災拠点の復旧・整備

防災拠点や避難所となる消防施設・小中学校施設の早期復旧、耐震化整備等を行い災害に対応できる拠点整備を図ります。

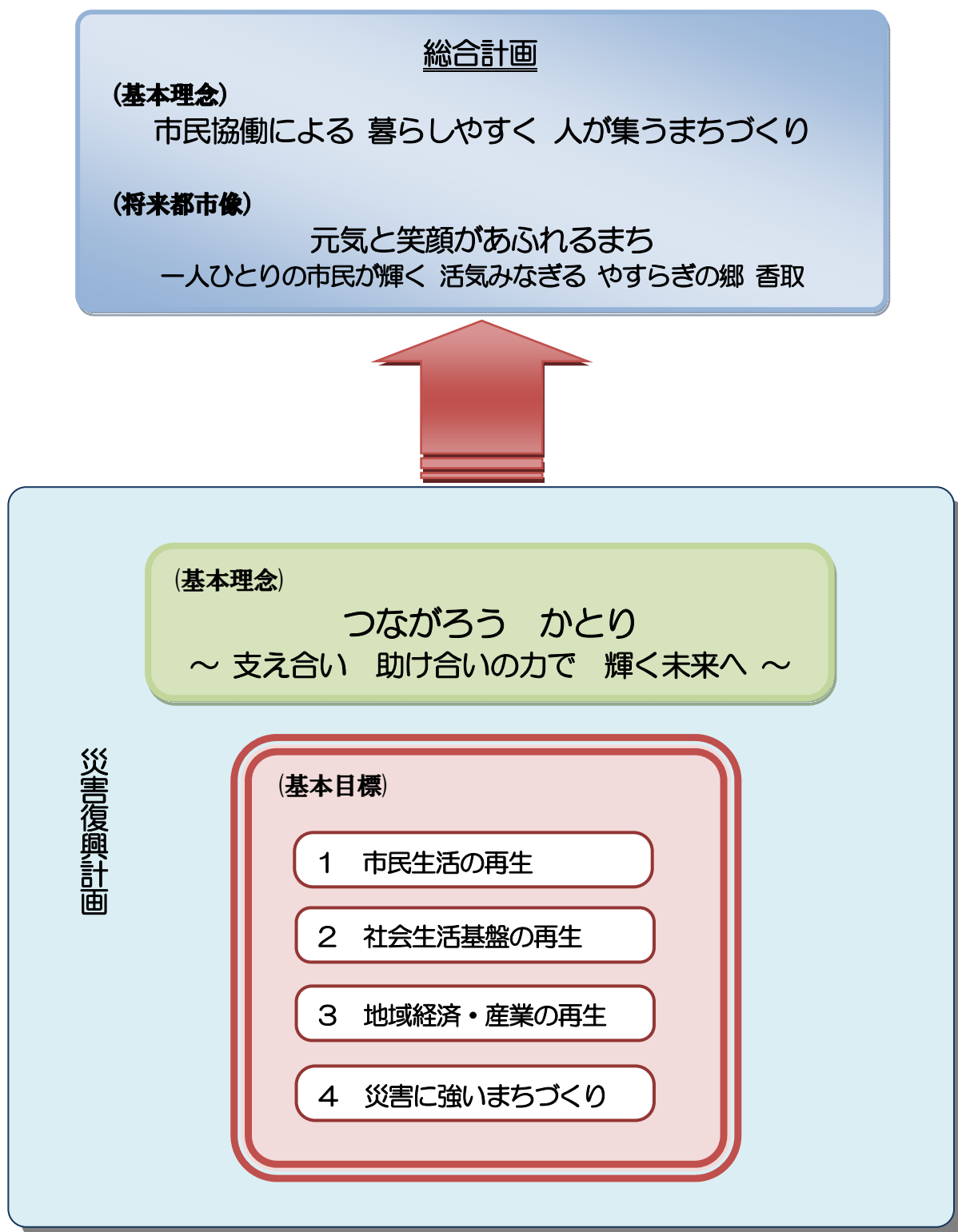
(2) 防災体制の強化

今回の震災を教訓とした、防災計画、情報連絡体制等の検証・見直しを行い、防災体制の強化を図ります。特に子どもや高齢者、障害者等の災害時要援護者に対する支援体制を強化します。

(3) 再生可能エネルギーの利活用

災害時などにおいても自立したエネルギーの確保や環境への負荷を抑えた循環型社会の形成を図り、再生可能エネルギーの利活用を推進します。

○復興計画のイメージ



Ⅲ 重点的課題

- 4つの基本目標を達成するため、基本目標に対応したそれぞれの分野において、各種の復興施策について密接に連携させながら、一体的に復興に向けた取組みを進めていきます。
- 計画を進めるにあたり、市では特に以下の課題について緊急かつ優先的に取り組んでいきます。

1 一刻も早い被災者の生活再建・社会生活基盤の復旧対応

震災により、住宅の倒壊や傾斜、沈下など、大きな被害を受けた市民の一刻も早い生活再建が求められています。

また、道路や河川、上下水道、各種公共施設などに甚大な被害を受けましたが、市民生活の安全性や利便性の回復、産業活性化のために一刻も早い本格復旧・整備が求められています。

工事施工に当たっては、国・県との連携や、道路部局、上下水道部局、交通安全部局の連携による効率的な対応が求められています。

2 液状化対策に係る調査分析・実施と市民対応

市内全域で約3,500ha（東京ドーム 約750個分）という広大な面積で地盤の液状化現象が発生しました。住宅地でも約140haで液状化が発生しましたが、これほどの大規模な液状化現象については過去に例がなく、復旧や今後の減災に対応するための工法等について、いまだ十分なノウハウが確立されていません。

このため、公共施設の本格復旧に関して、技術的観点や財政的観点などから早急に調査・分析の上、対策を実施していくとともに、宅地の液状化対策に関しても、補修や再建築の方法等について早急に調査を行い、市民からの不安の声に対して適切に対応していくことが求められています。

3 災害に対する備えの強化・充実

(1) 災害時の応急体制の整備

今回の震災では、浄水場等について非常用電源が確保できなかったこと等により、震災直後の応急対応がより困難となった面がありました。

このため、今後の災害に備え、災害時の応急体制の整備を早急に図る必要があります。

(2) 災害時における地域連携体制・情報伝達システムの強化

今回の震災では、行政による対応のみでは限界があることが明らかになり、地域全体で情報を共有しながら関係者で連携して震災対応に取り組むこと、また、それにより地域の方々の不安や不満に迅速・的確に対応していくことの重要性が明らか

となりました。

このため、関係者の役割分担や連携のあり方について整理し地域連携体制の強化を図ることや、災害時の情報発信のあり方について、発信すべき情報内容や情報伝達の手段等について早急に検討し、情報伝達システムの強化を図ることが必要となっています。

第 3 章 復興計画の推進

I 計画推進の5原則

1 市民、事業者、各種団体等との連携強化

今回のような大規模な災害時には、行政による対応のみでは限界があることが明らかになったことを踏まえ、これまで以上に、市民・事業者・各種団体等との連携を強化する必要があります。特に災害時の初期対応は、地域の助け合いに頼らざるを得ないことから、それぞれの役割分担を明確にしておく必要があります。

そのために、災害発生時における地域の支援体制の強化を図り、各町内における自主防災組織の結成や活動支援、事業者や各種団体、地域コミュニティなどとの連携による共助、公助、協働体制の構築に努めます。

また、希薄化しつつある地域住民の連携を強い絆へと結びつけるため、本年3月に制定した「香取市まちづくり条例」に基づき、住民自治協議会の設立や運営支援を強力に行い、既存の取り組みを尊重しつつ地域コミュニティを活性化し、市民協働によるまちづくりを推進します。

2 国・県・他の市町村との連携強化

今回の大震災は、東日本全域に未曾有の被害をもたらし、産業活動の停滞や風評被害などによる社会経済への影響は甚大で、今後の復興に向けた様々な課題を克服していくためには国・県・他の市町村との連携を強化した取り組みを進める必要があります。

国・県管轄の道路や河川等については、一日も早い本格復旧について国・県に要望を行っていきます。

また、合併以降、財政基盤の強化に努めてきましたが、今回の震災による公共施設等への被害は非常に大きく、災害復旧・被災者支援は、国・県の全面的な財政支援が必要となっています。国庫補助金のかさ上げや有利な起債、地方交付税、一括交付金等の新たな財源など、国・県からの財政支援について引き続き強く要望していきます。

今回の震災発生直後から、本市に対しても給水活動や上下水道の応急復旧、災害用物資の提供など、多くの市町村から力強い応援がありました。復興の円滑な推進や今後の災害に備え、相互応援協定等の強化など他の市町村との連携を一層強化していく必要があります。

特に本市は、液状化による被害が顕著であることから、県内はもちろんのこと、県外の市町村とも連携し、液状化対策に係る情報の共有や国・県への支援策等に係る要望活動などを積極的に行っていく必要があります。

3 効率的・計画的な行財政運営の推進

震災からの復旧・復興には、膨大な費用を要することから、市の財政を悪化させ、市民に大きな負担がかからないよう、国・県等の支援を最大限に活用し、効率的かつ計画的な行財政運営を推進します。

また、既存の事業計画の見直しや更なるコスト削減の取り組みも必要です。

市の健全財政を維持し、復旧・復興事業を円滑に実施するためにも、引き続き、一層の行財政改革を推進していきます。

4 事業を実施できる体制づくり

今回の震災では、通常の行政業務に加えて震災に関する業務も行わなければならないため、職員の事務量が大きく増加しています。新たに発生する事業や、庁内各部署で横断的に取り組むべき項目も多くなっていることから、これまで以上に各部署間の連携を充実させるとともに、全庁的な実施体制を構築し、全職員が一丸となって取り組んでいく必要があります。

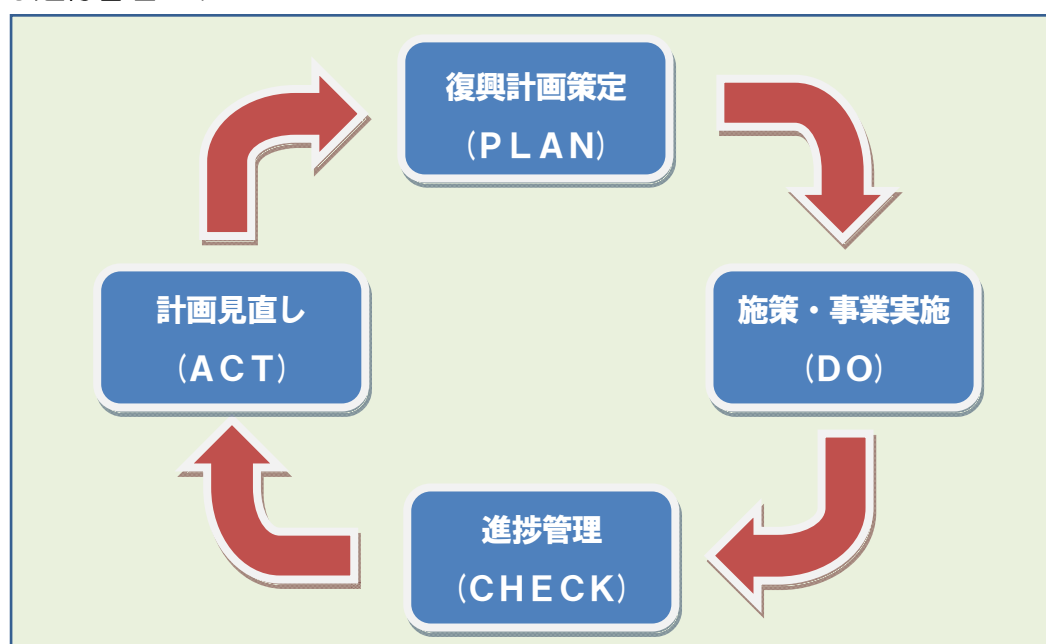
また、任期付職員等の雇用を図るほか、国・県・各自治体からの職員派遣等の応援体制についても、引き続き依頼していきます。

5 計画の進行管理の実施

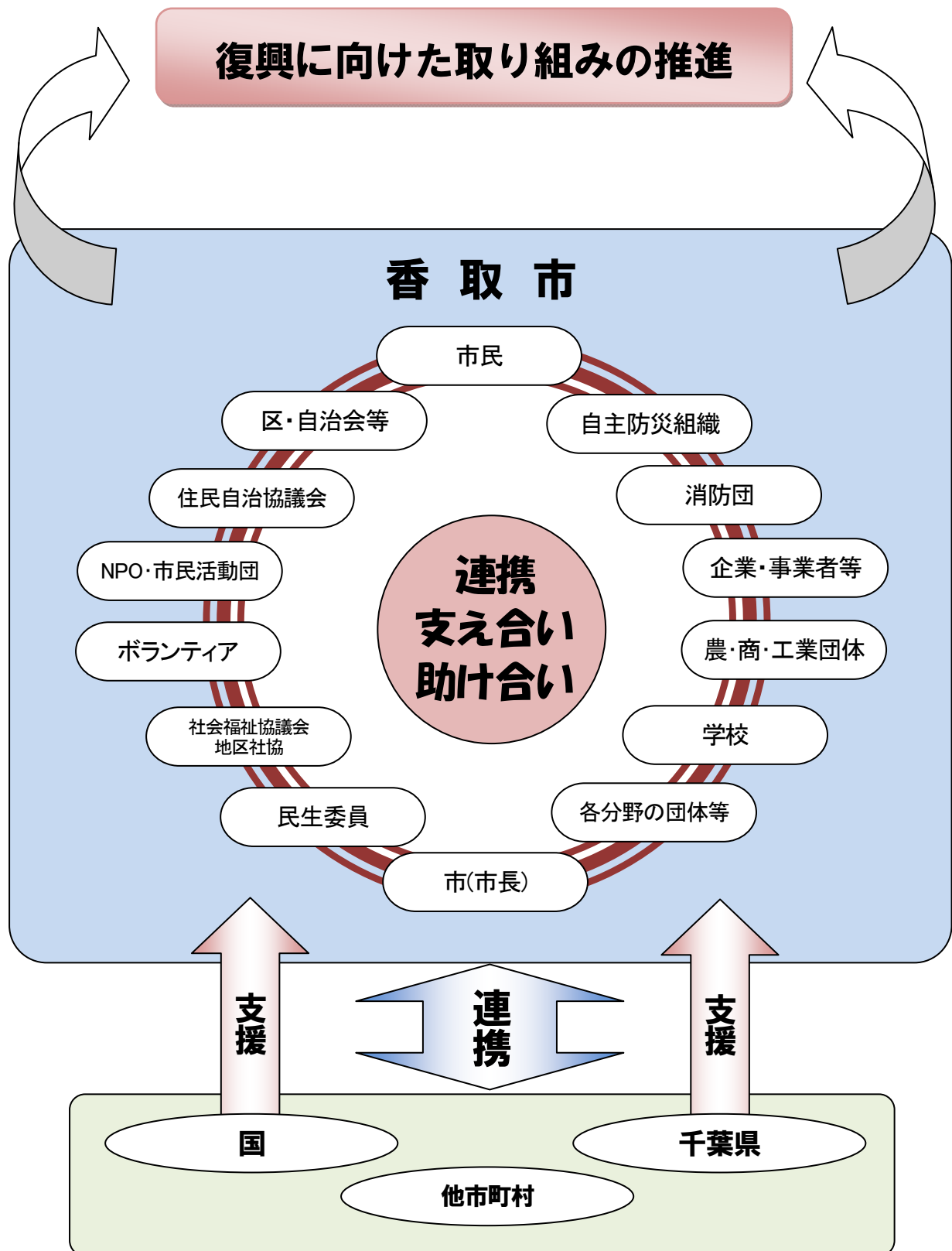
本計画の円滑な実現のため、施策・事業等の進捗状況の的確な把握と検証を行い、計画の実効性を高めその着実な推進を図ります。特に今後、各分野において予算と整合した詳細な実施計画等の策定が必要となることから、その進捗管理を行い、事業の執行状況等を明らかにします。

また、今後の社会・経済情勢等の変化や国県の動向に対応するために、計画の必要な見直しを行っていきます。

○進行管理のイメージ



○香取市の復興体制イメージ



第 4 章 復興に向けた取り組み

I 分野別計画の体系

1 市民生活の再生

(1) 住宅再建・生活再建の支援

- ①各種相談や申請などの被災者支援・対応の充実
- ②罹災証明書の早期発行
- ③各種支援情報の提供
- ④義援金・見舞金、各種支援金・貸付金等
- ⑤生活保護の迅速な対応
- ⑥住宅再建支援の実施
- ⑦市営住宅一時使用料の免除
- ⑧応急仮設住宅入居者の生活支援、環境整備
- ⑨被災した浄化槽の補助制度の新設
- ⑩がれきの受入れの実施

(2) 医療・保健・福祉の充実

- ①仮設住宅入居者などへの訪問、相談、安否確認の実施
- ②地域との協働による高齢者等の見守り体制構築
- ③緊急通報装置設置事業の推進
- ④災害時の障害者相談支援の実施
- ⑤保育料の減免
- ⑥災害時の保育所等入所児童の安全確保
- ⑦災害時の拠点病院への支援充実
- ⑧心のケアの実施支援
- ⑨健康相談の実施
- ⑩地域医療体制の検討
- ⑪小見川総合病院のあり方の検討
- ⑫老人福祉センターのあり方の検討

(3) 放射性物質に対する不安解消・安全確保

- ①大気中の放射線量の定期的な測定・結果の公表
- ②水道水の放射線量調査を継続実施・結果の公表
- ③脱汚泥や放流水の放射性物質測定実施・結果の公表
- ④農畜産物や農地の放射性物質の測定の実施要請・適切な情報提供
- ⑤放射能に関する正しい知識の周知

2 社会生活基盤の再生

(1) 道路・河川の復旧

- ①道路・河川等の計画的で効率的な復旧を実施
- ②交通安全施設の早期復旧

(2) 上下水道の復旧

- ①水道施設の早期復旧
- ②水道施設の耐震化・液状化対策
- ③災害時給水体制の強化
- ④浄水場、取水場の自家発電装置の設置
- ⑤水道緊急連絡管の整備
- ⑥公共下水道施設の早期復旧
- ⑦農業集落排水施設の早期復旧
- ⑧下水道施設の耐震化及び液状化対策
- ⑨農業集落排水施設(管路)の液状化対策

(3) 各種公共施設の復旧

- ①保育施設の復旧・災害に備えた施設整備
- ②学校施設の早期復旧、耐震化の実施
- ③幼稚園施設の早期耐震化の実施
- ④公園施設の早期復旧
- ⑤市営住宅施設の早期復旧
- ⑥被災公共施設の復旧

3 地域経済・産業の再生

(1) 農業の再建支援

- ①農地・農業用施設の早期復旧
- ②農畜産物のPRを実施
- ③農業経営再建のための融資制度の情報提供、活用支援
- ④農畜産物、産品等のブランド化等の推進
- ⑤耕作放棄地対策の実施
- ⑥圃場整備事業の推進
- ⑦グリーンツーリズムの推進

(2) 放射性物質汚染による出荷制限 や風評被害対策

- ①農畜産物や農地の放射性物質の測定の実施要請・適切な情報提供

(3) 商工業の再建支援・商工業振興

- ①中小企業者の事業資金を融資
- ②金融相談や経営相談を実施
- ③商業振興、活性化事業に対する助成
- ④企業・大型店舗の誘致を推進
- ⑤事業主の雇用助成

(4) 観光の振興・情報発信

- ①関係機関との連携による観光資源の復旧支援
- ②水生植物園のリニューアル整備
- ③住民参加型観光イベントの実施
- ④中心市街地等の活性化計画の策定

(5) 歴史的町並みの再建

- ①歴史的建造物の罹災物件の復旧(修理費助成)
- ②街なみ環境整備事業
- ③所有者による維持管理困難物件の取得・保存
- ④伝統木造建築物の耐震化の推進
- ⑤景観阻害建築物・空家・空店舗対策の実施
- ⑥伊能忠敬旧宅等の文化財の復旧

4 災害に強いまちづくり

(1) 防災拠点の復旧・整備

- ① 消防施設の早期復旧・整備
- ② 学校施設の早期復旧、耐震化の実施

(2) 防災体制の強化

- ① 地域防災計画の検証・見直し
- ② 自主防災組織の設置推進・活動の充実
- ③ 防災意識啓発
- ④ 避難所、避難場所等の検証・防災関連情報の周知
- ⑤ 防災無線の整備
- ⑥ 災害時の情報発信体制の充実
- ⑦ ホームページの災害時対応の充実
- ⑧ 自治会等との情報伝達体制の強化
- ⑨ 地域コミュニティとの協働による防災体制強化
- ⑩ 緊急時相互応援協定の活用・強化
- ⑪ 土地地番等の適正化(GIS整備)
- ⑫ 災害時要援護者支援計画の策定・推進

(3) 再生可能エネルギーの利活用

- ① 再生可能エネルギーの推進
- ② 節電、省エネルギーの推進

Ⅱ 分野別計画の具体的内容・事業

1 市民生活の再生

(1) 住宅再建・生活再建の支援

(課題)

- ・住宅の倒壊や傾斜、沈下などにより、震災前に居住していた住宅での生活が困難なケースも多く発生しており、住宅の補修や再建に関する目途がたっていない世帯も多くなっています。
- ・液状化被害を受けた地域では、沈下した家屋の補修や地盤の改良などに多額の費用を要しますが、必要な補修方法や内容等が分からないこともあり、対応に苦慮している世帯が多い状況です。
- ・被災した市民からは、住宅再建等への助成・融資に対する要望が多くなっています。
- ・応急仮設住宅の入居期限は2年以内に限られていることから、住宅の自立再建が困難な世帯への対応が必要となります。

(方針)

- ・被災者生活再建支援法に基づく支援金支給や国・県の補助事業、各種貸付事業、税や保険料の減免、各種利用者負担の軽減等の実施により、被災者の一日も早い住宅再建・生活再建を支援します。
- ・液状化被害を受けた住宅所有者等に対しては、沈下や傾いた家屋の修復方法や工法等の情報をできるだけ早く提供できるように国・県等の動向を注視するとともに、市独自の調査を進めていきます。
- ・災害に強い住宅や市街地形成を図るため、一般住宅における耐震診断や耐震改修を促進するための支援を行います。
- ・被災した市民の様々な課題解決のため、その相談窓口を充実し、きめ細かな対応ができる体制を整備し、住宅・生活再建を全面的にバックアップします。
- ・高齢者など住宅の自立再建が困難な人には、生活実態に見合った住宅支援を行います。
- ・応急仮設住宅入居者が、快適に生活ができるよう居住環境の向上を図ります。

※ 「2章 Ⅲ 重点的課題」に掲げ、緊急かつ優先的に取り組む、主な事業については、重点課題欄に『**重**』マークを記載します。

※ 地域住民・コミュニティ等と行政が協働し、実施することが必要な事業については、『**協**』マークを記載します。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
重	各種相談や申請などの被災者支援・対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> 被災者支援に関する総合窓口を設置し、各種支援制度の受付事務や相談をワンストップ化 各種支援や相談にあたり、高齢者などに配慮した相談受付を実施 被災・罹災の程度により様々な支援制度があり、被災者の生活再建に向けた相談を受付 	市 (総務課) (税務課) (社会福祉課) (都市計画課) ほか	H22～23
	罹災証明書の早期発行	<ul style="list-style-type: none"> 震災による家屋の罹災程度の調査の早期実施・罹災証明書を早期発行 	市 (総務課) (税務課) (納税課)	H22～
	各種支援情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度について、広報かとり(震災支援号を含む。)や市ホームページ等を通じて情報を提供 	市 (社会福祉課) (都市計画課) (秘書広報課)	H23
重	義援金・見舞金、各種支援金・貸付金等	<ul style="list-style-type: none"> 日本赤十字社や千葉県、香取市へ寄せられた義援金や見舞金の早期の配分・交付 被災者生活再建支援法に基づき被害の程度と再建方法に応じ支援金を給付 被災者生活再建支援法に基づく支援を受けられない被災者の住宅再建への支援金を給付(千葉県被災者住宅再建支援金) 災害によって一時的に生計の維持が困難になった方への緊急貸付(生活福祉資金貸付制度) 世帯主の方が負傷した世帯や住居・家財に著しい損害を受けた世帯の生活の立て直しのため、最高350万円までの資金を貸付(災害援護資金の無利子貸付) 	国・県・市 (社会福祉課)	H22～23
	生活保護の迅速な対応	<ul style="list-style-type: none"> 被災者の状況に十分配慮し、生活保護の申請意志が確認された場合は、迅速に対応 	市 (社会福祉課)	H22～

重	住宅再建支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・被災者の住宅再建にあたり、地盤や地盤の改良工法、再建築、補修などの相談を受付(被災者住宅再建相談) ・被災者が住宅を再建するにあたり、金融機関から貸付を受ける場合の利子を助成(被災者住宅再建資金利子補給) ・住宅の耐震診断、耐震改修に対して助成を行い、耐震化を促進 	<p>県市 市民等 金融機関等 (都市計画課)</p>	H23～
	市営住宅一時使用料の免除	・被災し一時的に市営住宅に入居した人の使用料を免除	市 (都市計画課)	H22～23
重	応急仮設住宅入居者の生活支援、環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・応急仮設住宅の維持管理経費等の経費に対し助成を実施 ・応急仮設住宅に緑のカーテンや玄関網戸を設置 	市 (都市計画課)	H23～25
	被災した浄化槽の補助制度の新設	・被災した浄化槽の復旧に対する補助制度の新設	県 (受付:下水道課)	H23
	がれきの受入れの実施	・瓦やブロック、木くずなどの災害廃棄物の受入れを実施	市 (環境安全課)	H22～

(2) 医療・保健・福祉の充実

(課題)

- ・被災した市民の多くは、体調の不調や様々なストレスを抱えて心身の健康が阻害されており、健康を回復、維持していくことが課題となっています。特に、高齢者や障害者、子どもなどの災害弱者へのきめ細かな対応が求められています。
- ・住宅が被災し、応急仮設住宅などに入居している被災者は、今後の生活や住宅再建などについての不安や急激な環境の変化などにより様々なストレスを抱えていますが、今後さらに、精神的・身体的なケアが必要となることが想定されます。
- ・大規模災害に対応した地域医療体制の整備、充実が求められています。また災害時に拠点病院となる小見川総合病院の耐震化などの施設整備が望まれています。
- ・高齢者や障害者などの災害時要援護者への支援体制を明確にする必要があります。

(方針)

- ・被災後の市民の心の健康を保持するため、こころのケア対策や各種相談事業を充実させます。
- ・在宅の高齢者や障害者などへの健康相談や訪問指導、安否確認、運動指導などを充実させます。
- ・応急仮設住宅などで避難生活を送っている被災者への生活支援相談員による福祉サービスの相談、見守り等について、関係機関と連携し実施を支援します。
- ・災害時、緊急時における医療体制の充実を図るため、医師会や関係機関との連携体制の強化を図ります。また災害時に拠点病院となる小見川総合病院の耐震化等を含めあり方を検討します。
- ・関係機関や各種団体との連携を進め、高齢者や障害者などの災害時要援護者への支援体制の強化を図ります。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
重	仮設住宅入居者などへの訪問、相談、安否確認の実施	・仮設住宅入居者や避難している世帯を訪問し、各種相談を受付	県・市 (社会福祉課)	H22～23
重 協	地域との協働による高齢者等の見守り体制構築	・高齢者などを地域で見守る「見守りネットワーク事業」を充実 ・災害時の高齢者等の安否確認や避難等にあたり、地域・区長等との協力体制を構築 ・高齢者や障害者など要援護者台帳システムを導入し、災害時の情報伝達や安否確認、避難誘導を実施	市 市民等 民間事業者等 (社会福祉課) (介護福祉課) (障害福祉課)	H23～
	緊急通報装置設置事業の推進	・高齢者の緊急連絡のための緊急通報装置をPRし、設置を推進	市 (介護福祉課)	H23～
	災害時の障害者相談支援の実施	・関係機関や各種団体と連携し、障害種別に応じた災害時の相談支援を実施	市 各種団体等 (障害福祉課)	H23～
	保育料の減免	・震災により住宅が全壊、半壊となった世帯の保育に係る負担を軽減	市 (子育て支援課)	H22～
	災害時の保育所等入所児童の安全確保	・災害時の避難場所や避難経路、児童の誘導方法・役割分担などの確認・訓練を充実し、安全を確保 ・児童クラブ設置の学校との連携強化や児童クラブの一元管理を行い入所児童の安全を確保	市 (子育て支援課)	全期間
	災害時の拠点病院への支援充実	・災害時に地域医療を担う拠点病院である県立佐原病院・小見川総合病院への支援を充実	市 (健康づくり課)	H22～
	心のケアの実施支援	・臨床心理士等による「かとりリラックス動作法チーム」の活動を支援	市 各種団体等 (健康づくり課)	H22～23
	健康相談の実施	・各保健センターにおいて「みんなの健康相談」を実施	市 (健康づくり課)	H22～23
	地域医療体制の検討	・災害時を含め地域医療体制についての検討を実施	市 医療機関等 (健康づくり課)	H22～
	小見川総合病院のあり方の検討	・小見川総合病院について、耐震化や建替えを含め、あり方を検討	市 病院組合 (健康づくり課)	H22～23
	老人福祉センターのあり方の検討	・老人福祉センター(田部)の今後の方向性を検討	市 香取広域 (企画政策課)	H22～

(3) 放射性物質に対する不安解消・安全確保

(課題)

- ・放射能は、目に見えず判定しにくいほか、ホットスポットが生じたり、天候等による変動が大きいなどの理由から、外部被ばくや内部被ばくによる将来の健康リスクなどに対して、市民の関心は非常に高く、不安は大きくなっています。
- ・飲料水や農畜産物等への影響についての不安意識から、大気、水道水、農畜産物などの放射線数値の正確な情報を求める市民の声が非常に高まっています。

(方針)

- ・福島第一原子力発電所事故の収束に向けた動きや国が示している放射線量の基準等を注視しつつ、国・県にきめ細かな放射線モニタリングの徹底を強く要請するとともに、大気中及び水道水などについての市独自の放射線モニタリング体制を強化し、測定結果を定期的に公表して、市民の不安解消に努めます。
- ・測定結果の公表手段については、市ホームページのほか、防災無線や広報紙、文書回覧など様々な媒体を使い、市民に迅速かつ確実に情報を提供します。
- ・市民に対し、放射能に関する正しい知識の周知に努めます。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
	大気中の放射線量の定期的な測定・結果の公表	・大気中の放射線量について、定期的な測定を実施し、結果を公表	県・市 (環境安全課)	H23～
	水道水の放射線量調査を継続実施・結果の公表	・利根川等を水源とする浄水場の水道水は週1回、地下水を水源とする水道水は月1回を基本として放射線量調査を継続し、結果を公表	市 (水道課)	H22～
	脱水汚泥や放流水の放射性物質測定実施・結果の公表	・佐原浄化センター、小見川浄化センターの脱水汚泥や放流水の放射性物質測定を継続実施し、結果を公表	市 (下水道課)	H23～
	農畜産物や農地の放射性物質の測定の実施要請・適切な情報提供	・農畜産物や農地の放射性物質の測定の実施継続を県に対し要請 ・測定結果について、公表し、情報を周知	県・市 (農政課)	H22～
	放射能に関する正しい知識の周知	・専門の講師を招いた放射能に関する講演会の開催や情報提供により正しい知識を周知	市 (環境安全課)	H23

2 社会生活基盤の再生

(1) 道路・河川の復旧

(課題)

- ・道路については、道路面や側溝などが破損し、一定の応急対応は行っているものの、通行に支障があったり、排水能力が低下している箇所が多い状況にあります。特に、液状化地域では、道路の凹凸や舗装の喪失により車両の通行や歩行者の通行に支障が出ています。
- ・河川については、液状化による川床の隆起による流下能力の減少や護岸の崩落に対する早急な対応が必要となっています。
- ・老朽化している橋梁の修繕や整備等の対策が求められています。

(方針)

- ・国、県、市道の幹線道路や橋梁、生活に密着した道路・側溝などの被災箇所の早期の本格復旧を国・県と連携し進めます。特に液状化地域では、道路の破損が激しいため水道や下水道のライフラインの本格復旧と合わせ早急な対応を実施します。
- ・上下水道工事と連携し、計画的かつ効率的な復旧を実施します。
- ・河川については、国・県と連携し、治水機能確保のため早期復旧を進めます。
- ・老朽化が進む市道橋梁について、長寿命化を図り計画的な修繕、整備を推進します。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
重	道路・河川等の計画的で効率的な復旧を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・被災した道路・河川等について、上下水道の復旧工事等と連携し、早期に、計画的で効率的な復旧を実施 ○国庫負担金活用:57箇所 	国・県・市 (建設課) (道路河川管理課)	H22～
重	交通安全施設の早期復旧	<ul style="list-style-type: none"> ・被災したカーブミラーやガードレールなどの交通安全施設の復旧を道路の復旧と連携し、早期に実施 	国・県・市 (環境安全課)	H22～

(2) 上下水道の復旧

(課題)

- ・水道の仮設配管は、道路上への設置のため、夏季には水温上昇、冬季には凍結が生じるほか、接触事故等による断水の危険もあるため、早期の本格復旧が必要となっています。
- ・浄水場や浄化センターなどの施設や管路の多くは、整備後長期間が経過し、老朽化が進んでいるため、順次の改修や更新が求められています。
- ・上下水道は、生活に欠かせないライフラインの要であることから、今後起こりうる大規模な災害に備え、災害に強い工法での復旧が望まれています。
- ・今回、震災直後の停電に際して取水や浄水に支障を来したことから、今後の震災に備えた対応が求められています。

(方針)

- ・水道施設については、被災箇所の本復旧を最優先に取り組み、併せて老朽管の計画的な更新を進めます。復旧、更新の際には、大規模な災害に耐えられるよう管路の耐震化等を図ります。
- ・下水道施設についても、被災箇所の本復旧を最優先に取り組みます。復旧の際には、改良土等による埋め戻しなど、下水道管路の液状化対策を実施します。
- ・停電による断水対策として、浄水場等に非常用自家発電機の整備を行います。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
重	水道施設の早期復旧	<ul style="list-style-type: none"> ・被災した管路などの水道施設の早期復旧を実施 ○国庫負担金活用 26箇所 延長約 20 km 	市 (水道課)	H22～
重	水道施設の耐震化・液状化対策	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震継手管(DIP GX 形等)を採用し水道管路の耐震化・液状化対策を実施 ・石綿管等を耐震管へ計画的な敷設替えを実施 ・耐震診断により耐震改修が必要な水道施設の早期耐震化 	市 (水道課)	H22～
重	災害時給水体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・給水用の運搬車両確保、給水タンクやポリタンク・給水袋(配布用)の備蓄、病院等の受水槽へ直接給水できる給水車の配備など、災害時の給水体制を強化 	市 (水道課)	H23
重	浄水場、取水場の自家発電装置の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・災害による停電対策として、玉造浄水場、飯島取水場、側高配水ポンプ場に自家発電装置を設置 	市 (水道課)	H24～
重	水道緊急連絡管の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時等に備え、佐原浄水場エリア、小見川浄水場、栗源簡易水道エリアの緊急連絡管を整備 	市 (水道課)	H26～
重	公共下水道施設の早期復旧	<ul style="list-style-type: none"> ・被災した下水道施設の早期復旧を実施 ○国庫負担金活用 管渠:16工区 延長:約 13.1km 施設:2施設 	市 (下水道課)	H23～25
重	農業集落排水施設の早期復旧	<ul style="list-style-type: none"> ・被災した農業集落排水施設の早期復旧を実施 ○国庫負担金活用:4地区 	市 (下水道課)	H22～24
重	下水道施設の耐震化及び液状化対策	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道管渠施設の埋戻しを地盤変動や液状化に強い改良土等を使用 ・下水道施設の耐震診断を行い耐震改修が必要な施設の早期耐震化 	市 (下水道課)	H22～ H25～
重	農業集落排水施設(管路)の液状化対策	<ul style="list-style-type: none"> ・リブ管を使用した復旧工法により、液状化対策を実施 	市 (下水道課)	H22～24

(3) 各種公共施設の復旧

(課題)

- ・新島中学校においては、今回の液状化により校舎全体が傾斜したため使用できない状況となっており、早急な対応が必要となっています。また、耐震化されていない学校施設もありますが、未来をつくる子どもたちの安全確保の観点から施設の耐震化を早急に図ることが必要となっています。
- ・市役所本庁舎周辺や各種公共施設において、震災による段差や亀裂等が生じていることから、利用者の安全性の確保や利便性の向上を図るため、段差等の解消を行う必要があります。

(方針)

- ・小中学校施設は、早期の復旧に努め、全校施設の耐震化を実施します。幼稚園施設についても改築等により耐震化を行います。
- ・新島中学校については、新校舎の建設を行います。
- ・社会福祉施設、社会教育・体育施設、文化施設、市営住宅、市役所本庁舎周辺などの各種公共施設についても早期の復旧を実施します。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
重	保育施設の復旧・災害に備えた施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・被災した保育施設の早期復旧を実施 ・保育所再編に伴う施設整備、児童クラブの設置を推進 ・老朽化した保育施設の早期の整備・耐震化 	市 (子育て支援課)	H22～
重	学校施設の早期復旧、耐震化の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の早期復旧、施設整備を推進 ・被災し、使用不可となった新島中学校の新校舎を建設 ・小中学校施設において耐震化が必要な施設すべての耐震化を早期実施 	市 (教育総務課)	H22～
重	幼稚園施設の早期耐震化の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園施設において耐震化が必要な施設すべての耐震化を早期実施 	市 (教育総務課)	H22～
重	公園施設の早期復旧	<ul style="list-style-type: none"> ・被災した公園施設の早期復旧の実施 国庫負担金活用:2箇所 	市 (都市計画課)	H22～
重	市営住宅施設の早期復旧	<ul style="list-style-type: none"> ・被災した市営住宅施設の早期復旧の実施 ○国庫負担金活用:1箇所 	市 (都市計画課)	H22～
重	被災公共施設の復旧	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所本庁舎周辺やひまわり苑、水の郷さわら棧橋、北総斎場など各公共施設を復旧 	市・香取広域 (財政課 ほか)	H22～

3 地域経済・産業の再生

(1) 農業の再建支援

(課題)

- ・香取市は関東一の米生産量を誇る水田地帯であり、農業は地域の基幹産業となっておりますが、農地や農業用施設に大きな被害を受けたため、作付けができなかった農家が多数出ました。
- ・近年、農家は農業収入の低迷により苦しい経営状況が続く中で、高齢化・後継者不足も顕著となっておりますが、今回の震災被害により、施設の復旧に関する金銭面の負担や放射性物質に関する風評被害等による収入減少が見込まれるため、今後、さらなる経営不振が危惧されます。

(方針)

- ・現在、農業産出額は、県下第2位ですが、様々な復興策や取り組みにより県下第1位を目指します。
- ・液状化等により被災した農地、農業用施設の早急な復旧を行います。特に農業用施設については、一刻も早い復旧のため市が事業主体となって災害復旧を行います。
- ・JAなどと連携し、被害を受けた農業者に対し、農業経営再建のための融資制度等の情報提供や相談体制を充実させます。
- ・農業従事者の高齢化が進む中、集落営農を推進し、担い手となる農業後継者の育成、確保を図ります。
- ・米産地として安定した水田農業の確立を図るとともに、さつまいもなどの農産物の産地化と香取ブランドの確立による生産振興を図ります。
- ・市内にある2つの道の駅（紅小町の郷、水の郷さわら）や民間直売施設と連携し、安全性を含めた農産物のPRや販売促進に取り組みます。
- ・農業法人等の取り組みと連携し、各種農業振興施策や都市農村交流事業を推進します。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
重	農地・農業用施設の早期復旧	・被災した農地・農業用施設(被災額 40 万円以上)について、国・県の支援を受け、市が事業主体となって早期復旧を実施	市 (農政課)	H22～
	農産物の PR を実施	・市内の道の駅(水の郷さわら・紅小町の郷)や民間直売施設等と連携し、農産物のPRを実施	市 民間事業者等 (農政課)	H22～
	農業経営再建のための融資制度の情報提供、活用支援	・農業経営再建のための融資制度の情報提供や融資制度の活用を支援	市 農家等 (農政課)	H22～
	農産物、産品等のブランド化等の推進	・香取市産の農産物及び産品等のブランド化を推進 ・ちばエコ農産物など減化学肥料、減農薬農法を実施する農業を支援	市 農家等 (農政課)	H22～
	耕作放棄地対策の実施	・耕作放棄地解消に積極的な集落に対して、県・国の事業を活用し、支援	国・県・市 農家等 (農政課)	H22～
	圃場整備事業の推進	・圃場整備事業による効率的な農業生産基盤の整備	県・市 (農政課)	H22～
	グリーンツーリズムの推進	・香取市の豊かな自然や文化をPRし、グリーンツーリズムを推進	市 農家等 (農政課)	H22～

(2) 放射性物質汚染による出荷制限や風評被害対策

(課題)

- ・ 現在、香取市内の多くの農家においては震災被害を乗り越えて作付け・栽培に尽力していますが、今後、仮に基準値を超える放射性物質が検出された場合、出荷停止によって収入を失う恐れがあります。また、既に風評被害によって価格の下落が生じていますが、今後の動向によっては、さらに風評被害が拡大し、価格が下落する恐れがあります。
- ・ 牛肉・豚肉など畜産業についても風評被害によって、値崩れが起きており、経営不振から離農も危惧されます。
- ・ 出荷停止となった場合の農畜産物の取扱いや汚染物の処分、生産者の経済的損失に対する補償等については、国等の責任による適切な対応が求められます。

(方針)

- ・ 放射性物質による風評被害解消のため、農畜産物の放射性物質測定対象品目や測定頻度を増やすことを、国県に強く要望し、消費者に安全であることを積極的に公表するなど、各種販売促進、消費拡大の施策を講じます。
- ・ 測定結果の公表手段については、市ホームページのほか、防災無線や広報紙、文書回覧など様々な媒体を使い、迅速かつ確実に情報を提供し、消費者に安全性をPRします。
- ・ 出荷停止となった場合の農畜産物の取扱いや汚染物の処分、生産者の経済的損失に対する補償等については、国等へ適正な補償を求めています。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
	農畜産物や農地の放射性物質の測定の実施要請・適切な情報提供	農畜産物や農地の土壌の放射性物質の測定の実施継続を県に対し要請 測定結果について、広報かとりや市ホームページ、防災無線、文書回覧などを通じ情報を周知	県・市 (農政課)	H22～

(3) 商工業の再建支援・商工業振興

(課題)

- ・香取市においては、震災以前から厳しい経営環境の下で経営努力による事業運営を行ってきた中小規模の事業者や個人事業主が多いが、震災による売上の減少や店舗等の被災により廃業した事業者も一部出てきており、今後さらに経営環境の悪化や経営不振が予想されます。
- ・JR佐原駅及びJR小見川駅周辺市街地は、商店街の空洞化が進んでおり、その再生が求められています。

(方針)

- ・商工業の早期復興のため、商工会議所や商工会、金融機関等と連携し、被災した事業者の資金調達に係る負担軽減、個店や商店街の再建に対する支援、消費需要を喚起する取り組みへの支援を行います。
- ・震災による売上の減少などを払拭するため、各種商店街が実施する活性化イベントなどに支援を行い、商店街を活性化させ、賑わいを創出します。
- ・地域経済の活性化や雇用機会の拡大を図るため、市内への新たな企業の誘致を強力に推進します。特に、産業用地として取得したソニー工場跡地への企業誘致を早急に進めます。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
	中小企業者の事業資金を融資	<ul style="list-style-type: none"> ・震災により売上減少などの影響を受けている中小企業者の事業資金の融資・助成 ○東日本大震災復興特別貸付 ○小規模事業者経営改善資金融資 ○東日本大震災復興緊急保証 ○災害関係保証 ○事業資金利子補給、保証料補助 	国・県・市 商工会議所 商工会 金融機関等 <small>(受付:商工観光課)</small>	H22～
	金融相談や経営相談を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・各種融資制度などの金融相談や経営相談を実施 ○震災復興支援アドバイザー派遣 ○中小企業再建支援専門家チームによる支援 	国・県・市 商工会議所 商工会 金融機関等 <small>(受付:商工観光課)</small>	H22～
	商業振興、活性化事業に対する助成	<ul style="list-style-type: none"> ・商業団体、商店街等が行う商業振興、活性化事業に対し助成 ○プレミアム商品券発行助成 ○商業及び商店街振興事業補助 ○商店街協同施設設置事業補助 	市 商工会議所 商工会 商業団体等 <small>(商工観光課)</small>	H23～
	企業・大型店舗の誘致を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・産業用地として取得したソニー工場跡地など市内へ企業を誘致 ・大型店舗の誘致活動を実施 	市 <small>(賑わいのまち推進課)</small>	H22～
	事業主の雇用助成	<ul style="list-style-type: none"> ・事業主が労働者の雇用を行うにあたり助成を実施 ○雇用調整助成金の支給 ○中小企業緊急雇用安定助成金の支給 ○被災者雇用開発助成金の支給 ○試行雇用奨励金の支給 	国 民間事業者等 <small>(受付:商工観光課)</small>	H22～

(4) 観光の振興・情報発信

(課題)

- ・香取市では、地域の歴史や文化・自然を活かした観光振興を地域活性化の重要な柱として位置づけ、これまで積極的に取り組みを進めてきましたが、今回の震災により、観光の拠点である歴史的町並みや小野川、水郷佐原水生植物園などが被災したほか、各種まつりやイベントを中止・延期せざるを得ませんでした。
- ・自粛ムードや原発事故による風評被害により東日本方面への旅行控えも発生していることから、香取市への観光入込客数が大幅に減少しており、観光の再生・振興に関する早急な対応が求められています。

(方針)

- ・本市の観光拠点である、歴史的町並みや小野川の一日も早い修復や復旧を国、県と連携しながら強力で推進します。
- ・応急復旧により開園した水郷佐原水生植物園については、大規模なリニューアルにより新たな観光拠点としての整備を検討していきます。
- ・震災前まで継続的に実施されてきた各種まつりやイベント等については、まちを活気づけ、市民を勇気づける復興イベントとして位置づけ、これまで以上に盛大に実施ができるよう支援します。
- ・歴史的町並みや里山などの本市の魅力をアピールする各種観光イベントや首都圏での観光キャンペーン等、地域一丸となったイメージアップ戦略と積極的かつ継続的な観光復興対策を展開します。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
	関係機関との連携による観光資源の復旧支援	・被災した観光資源について、国・県など関係機関と連携し早期に復旧	国・県・市 (商工観光課)	H23～
	水生植物園のリニューアル整備	・水生植物園のリニューアル整備を検討	市 (商工観光課) (賑わいのまち推進課)	H22～
	住民参加型観光イベントの実施	・市内の様々な観光資源を活かし、住民参加型のイベントを実施 ・震災からの復興をテーマにフォーラム等を実施	市 (商工観光課) (賑わいのまち推進課)	H23～
	中心市街地等の活性化計画の策定	・香取市中心市街地活性化計画や都市再生整備計画(佐原市街地・小見川駅周辺)等の計画を策定し、活性化事業を推進	市 (賑わいのまち推進課) (市街地整備課)	H23～

(5) 歴史的町並みの再建

(課題)

- ・香取市では、長年にわたり地域住民が中心となって歴史的町並みが保存されてきましたが、今回の震災により建造物が被災し、市民のみならず、市外からも早期の復旧が望まれています。
- ・今後の震災等に備え、歴史的建造物の耐震化などについても検討が必要となっています。

(方針)

- ・国・県の補助事業等を最大限に活用し、被災した歴史的町並みの一日も早い復旧を強力に支援、推進します。
- ・伊能忠敬旧宅の復旧や県指定建築物の復旧支援を行います。
- ・佐原町屋研究会による伝統木造建築の耐震性能実験を支援するなど、歴史的建造物の耐震化や補強方法などの検討と開発を行います。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
	歴史的建造物の罹災物件の復旧(修理費助成)	・文化庁の補助により、重伝建地区内の罹災物件の修理費を助成(難工事は、施工監理費も助成)	市 市民等 (都市計画課)	H22～
	街なみ環境整備事業	・国土交通省の補助により、佐原の町並みにおける罹災物件の詳細な被害状況を調査 ・景観形成地区内の震災被害建物の修理費を助成	市 市民等 (都市計画課)	H22～
	所有者による維持管理困難物件の取得・保存	・文化庁の補助により、重伝建地区内で罹災した物件で、所有者による維持管理が困難な物件を市が取得し、保存・活用	市 (都市計画課)	H22～
	伝統木造建築物の耐震化の推進	・佐原町家研究会による伝統木造建築の耐震性能実験・耐震補強方法の開発を支援	市 市民等 (都市計画課)	H22～
	景観阻害建築物・空き家・空店舗対策の実施	・景観阻害となっている建築物の所有者に対し、景観に調和した建物への更新の働きかけを実施 ・大学と協働し、空き家・空店舗の活用促進事業を実施	市 市民等 (都市計画課)	H22～
	伊能忠敬旧宅等の文化財の復旧	・伊能忠敬旧宅の復旧・県指定建築物の復旧を支援	市 (生涯学習課)	H22～

4 災害に強いまちづくり

(1) 防災拠点の復旧・整備

(課題)

- ・市の防災拠点、避難場所等について、復旧や機能整備が求められています。
- ・今回被害を受けた学校施設等については緊急時の避難場所となることも踏まえ早急な復旧が求められています。
- ・栗源分遣所は今回の震災で被災し、現在は一時移転している状況にありますが、地域の安全・安心に十分応えられるよう早急な対応が求められています。また、老朽化した消防庁舎の整備が求められています。

(方針)

- ・小中学校施設は多くの施設が避難所に指定されているため、被災した施設は早期に本格復旧を行います。また、市内の全ての小中学校施設の耐震化を実施します。
- ・今回、震災で被災した栗源分遣所の整備を早急に行います。また、施設が老朽化している佐原消防署と小見川消防署の計画的な更新を行います。
- ・コミュニティセンターや地区集会所などを活用し、災害時における身近な安全な避難拠点の形成を図ります。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
重	消防施設の早期復旧・整備	・被災した消防施設の早期復旧を実施 ・震災により使用できなくなった栗源分遣所のほか、老朽化した佐原消防署、小見川消防署の早期の整備	市・香取広域 (市:総務課)	
重	学校施設の早期復旧、耐震化の実施	・学校施設の早期復旧、施設整備を推進 ・被災し、使用不可となった新島中学校の新校舎を建設 ・小中学校施設において耐震化が必要な施設すべてを早期に耐震化を実施	市 (教育総務課)	H22～

(2) 防災体制の強化

(課題)

- ・大規模災害時には、行政による対応のみでは限界があることが明らかとなったことを踏まえ、今後の大規模災害に備え、行政と地域が連携し、防災体制を強化していくことが必要です。
- ・香取市は、伝統行事などが活かされコミュニティ活動が比較的充実している地域もありますが、地域によってはコミュニティ意識が希薄になりつつあり、地域の助け合いや協力体制などを築けない場合もあります。
- ・災害時の安全確保や避難、情報の収集や周知など災害時初期対応は地域の力、地域の助け合いに頼らざるを得ない状況です。
- ・災害の対応（特に緊急対応）について、今回の震災での経験を活かして、関係者の役割分担や連携のあり方について整理しておくことが必要です。また、平成20年度に策定した香取市地域防災計画をはじめ、その他の諸計画についても様々な面から検証を行う必要があります。
- ・災害時の情報発信のあり方については、発信すべき情報内容や情報伝達の手段等について、あらかじめ検討しておくことが重要です。特に防災行政無線が聞こえない、または聞き取りづらいとの多くの声が寄せられています。また、市ホームページを見ることができない世帯への対応について十分に検討する必要があります。
- ・今回の震災により、防災や安全に関するノウハウ、知識等が蓄積されたことから、今後はそれらを共有化、体系化することが必要です。

(方針)

- ・災害発生時における地域の支援体制の構築を進めるため、各町内における自主防災組織の結成を引き続き推進し、結成後においても組織育成のための支援を行います。
- ・今後の災害に備えるべく、事業者や消防団、各種団体、地域コミュニティなどとの連携による共助、公助体制の仕組みづくりを行います。
- ・希薄化しつつある地域住民の連携を強い絆へと結びつけるため、香取市まちづくり条例を推進し、住民自治協議会の設立及び運営支援を積極的に行い、各地域コミュニティを活性化します。
- ・今回の震災を教訓とし、地域防災計画の予防対策、応急対策、復旧対策がより充実強化されるよう香取市地域防災計画等の見直しを早急に進めます。
- ・災害時要援護者支援計画に基づき支援対策を進めます。
- ・災害時に情報の空白をつくらないために、防災行政無線等による確実な情報伝達を行います。また防災行政無線の難聴世帯への戸別受信機の設置や携帯メール配信の登録を推進します。
- ・広報かとり号外や随時広報紙の発行、広報車による情報提供など、状況に応じた広報媒体や手段を使い、市民に迅速かつ確実に情報が届くよう情報提供を行います。
- ・災害時の情報周知や被害状況の報告にあたり、自治会等と協力し、情報伝達体制を強化します。
- ・各小中学校で、防災意識の醸成を図るため、防災教育を推進します。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
重	地域防災計画の検証・見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・震災の経験を踏まえ、地域防災計画を検証し、見直しを実施 ・ボランティアの受入れを行うボランティアセンター機能の検証を実施し、今後の設置体制等を検討 ・災害時における迅速な避難所の設置、運営等を行うためのマニュアルを作成 ・災害時の情報連絡体制の検証を行い、災害時に適切に情報の周知ができる体制を構築 	市 (総務課)	H23～24
重 協	自主防災組織の設置推進・活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・区や住民自治協議会などで自主防災組織の設立を推進 ・設立済みの自主防災組織の活動の充実 	市 市民等 (総務課)	全期間
協	防災意識啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・平常時から防災意識を啓発 ・各家庭での食糧等防災用品の備蓄を推進 ・自主防災組織、各地区、住民自治協議会等による防災訓練の実施を推進 	市 市民等 (総務課)	全期間
	避難所、避難場所等の検証・防災関連情報の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所や避難場所、食糧等の備蓄場所について、検証を行い、周知を実施 ・避難場所の表示の検証・改善を実施 ・地域ごとの避難場所や避難路マップの作成について、自主防災組織や各区、住民自治協議会と連携 ・防災関連の様々な情報を広報かたりや市ホームページ、文書回覧などにより周知 ・土砂災害に備え、土砂災害ハザードマップを作成し周知 	市 (総務課)	H23～
重 協	防災無線の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・防災無線の難聴地域の解消を図るための対策を実施 ・屋外放送塔からの放送が聞き取りにくい場所での、戸別受信機の設置推進・携帯電話のメール配信登録を推進 	市 市民等 (総務課)	全期間

重	災害時の情報発信体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の情報周知にあたり、広報かとり号外や随時情報紙の発行体制の整備 ・災害時に、防災無線放送や市ホームページ等での情報周知を補う方策として、広報車による情報提供体制を整備 	市 (秘書広報課)	H22～
重	ホームページの災害時対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時にホームページでの情報周知を迅速に行うため、災害時ホームページ掲載マニュアルを作成 ・停電時も閲覧が可能なモバイル版災害情報ページの活用を推進 	市 (秘書広報課)	H23
重 協	自治会等との情報伝達体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の情報周知や被害状況の報告にあたり、自治会等と連携し、情報伝達体制を強化 	市 市民等 (総務課) (市民活動推進課)	H23～
重 協	地域コミュニティとの協働による防災体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の連携を結び付け、住民自治協議会の設立・運営を支援 ・「向こう三軒両隣」の精神や弱者が守られる仕組みを再生 ・市民、自主防災組織、自治会等、住民自治協議会、企業などと協働により防災体制を強化 	市 市民等 (市民活動推進課)	全期間
重	緊急時相互応援協定の活用・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等緊急時の初期対応について、相互応援協定の活用・強化(水道・下水道 など) 	国・県・市 他市町村等 民間事業者等	H22～
	土地地番等の適正化(GIS 整備)	<ul style="list-style-type: none"> ・住所の枝番表示など土地地番と住所地の適正化を図り、災害時等の対応の迅速化 	市 (税務課)	H23～
	災害時要援護者支援計画の策定・推進	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者支援計画に基づき、要援護者の避難支援体制を明確にし、福祉避難所等への避難誘導手段の確保や避難所の環境維持に努める。 	市 (社会福祉課) (介護福祉課) (障害福祉課)	H23～
重 協	地域との協働による高齢者等の見守り体制構築【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者などを地域で見守る「見守りネットワーク事業」を充実 ・災害時の高齢者等の安否確認や避難等にあたり、地域・区長等との協働体制を構築 ・高齢者や障害者など要援護者台帳システムを導入し、災害時の情報伝達や安否確認、避難誘導を実施 	市 市民等 民間事業者等 (社会福祉課) (介護福祉課) (障害福祉課)	H23～

(3) 再生可能エネルギーの利活用

(課題)

- ・今回の震災で大規模な停電が発生したことを踏まえ、地球環境に優しく、非常時においても自立できるエネルギーシステムの構築に対する需要は高まっています。
- ・災害に強い安全な都市形成が求められる中で、環境への負荷を抑え、再生可能なエネルギーを導入した循環型社会を形成していく必要があります。

(方針)

- ・太陽光や風力などの自然エネルギーをはじめとした再生可能エネルギーの利活用を推進します。
- ・電力の自給体制を構築できるような大規模な再生可能エネルギーによる発電施設の誘致等について検討します。
- ・環境への負荷の少ないバイオマスの利活用による地域エネルギーシステムの構築・推進を図ります。

○主な事業

重点課題	項目	事業概要	実施主体等	実施期間
重 協	再生可能エネルギーの推進	太陽光発電や風力、バイオマスなどの再生可能エネルギーを推進 ・太陽光発電システムの導入助成を実施 ・市の公共施設の改修等に併せ、太陽光発電システム設置を推進 ・大規模太陽光発電所(メガソーラー)の誘致活動を実施 ・バイオマスタウン構想に基づきバイオマスの利活用を推進	市 市民等 民間事業者等 (企画政策課) (環境安全課) (農政課)	H23～
協	節電、省エネルギーの推進	・震災後の電力不足に伴う節電や省エネルギーを推進 ・公用車の更新に併せ、ハイブリット車やEV車を導入	市 市民等 民間事業者等 (環境安全課) (財政課)	H23～

(参考資料)

I 策定体制

- 1 香取市災害復興本部 設置要綱
- 2 香取市災害復興本部 委員構成・事務局体制

II 外部委員会

- 1 香取市災害復興会議 設置要綱
- 2 香取市災害復興会議 委員名簿

III 市民意見

- 1 市民アンケート
- 2 市長・市民復興対談
- 3 区長・町内会長等意見交換会
- 4 パブリックコメント

IV 策定経過

策定経過

V 香取市震災復旧・復興基本方針

香取市震災復旧・復興基本方針